

2023年8月24日発行

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 外部連携団体からのお知らせ
- 3) 健康心理学コラム vol. 128 「トラウマと援助要請のあいだにあるもの」 瀧井 美緒 (岩手県立大学)

1) 学会からのお知らせ (<https://kenkoshimi.jp/>)

■日本健康心理学会第36回大会のお知らせ (日本健康心理学会第36回大会準備委員会)

今年度の大会は対面にて開催致します。『予防と医療、そして健康心理学—10年先をより良く生きるために』を大会テーマとし、さまざまな企画や懇親会など、会員の先生方に魅力的な機会となるよう準備委員会一同鋭意準備中です。

発表申込の締切は9月24日(日)まで延期致しました。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

日本健康心理学会第36回大会ホームページ
<https://jahp36th.fjss.jp/>

■ヨーロッパ健康心理学会 Practical Health Psychology blog (PHPB, 実践健康心理学ブログ) の8月記事のお知らせ (国際委員会より)

“To eat or not to eat, that is the question: How can health psychology practitioners help people manage food safety?” の日本語記事「食べるべきか食べざるべきか、それが問題です。健康心理学の専門家は人々が食の安全を守るのをいかに助けることができるのでしょうか？」が掲載されています。

下記 URL よりご覧ください。
<https://practicalhealthpsychology.com/ja/2021/01/to-eat-or-not-to-eat-that-is-the-question-how-can-health-psychology-practitioners-help-people-manage-food-safety/>

※アクセスの際は、URL 全てをコピーしアドレスバーへペーストのうえご高覧ください。

※ブラウザによっては開けない場合があります。その際にはお手数ですが、別のブラウザにてお試しください。

■ヘルスサイコジスト 91 号の発行 (広報委員会より)
ヘルスサイコジスト 91 号が発行されています。下記 URL よりアクセスしていただき、併せてご高覧ください。
https://kenkoshimi.jp/health/pdf/2307_91.pdf

2) 外部連携団体からのお知らせ

■「第2回人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」ご協力のお願い (人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 (GEAHSS) より)

日本健康心理学会が加盟している人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 (GEAHSS ギース) より人文社会科学系の学協会に所属している方々を対象に、男女共同参画の実態を明らかにするための調査

協力依頼がありました。今回の調査をもとに政策提言を行う予定とのことです。

調査への回答は、人文社会科学系の学協会に所属している方々であれば、現在のご職業等は問わないとのことです。政策提言を行うためにはより多くの万単位の回答数が必要となるため、少しでも多くのみなさまにご協力をいただきたいとのことです。

日本健康心理学会の会員のみなさまにもご案内させていただきます。調査へのご協力をどうぞよろしくお願いたします。

調査期間：8月18日(金)～9月30日(土)

以下の URL から詳細をご覧の上、調査へのご協力・回答をお願いいたします。

<https://jmb-svy.com/GEAHSS/>

■第5回禁煙推進学術ネットワーク学術会議のお知らせ (禁煙推進学術ネットワークより)

2023年10月1日に開催されます第5回禁煙推進学術ネットワーク学術会議の参加登録フォームが公開されましたので、皆様参加登録をお願いします。

以下より参加フォームページへアクセスください。

<https://tobacco-control-research-net.jp/activity/nenji/index.html#03f03b77>

※一般参加費無料

■「月刊健康づくり」のお知らせ (健康日本21 推進全国連絡協議会より)

「月刊健康づくり」誌面を全ページ、ホームページ上で公開していることはご存知でしょうか？

8月号には「健康日本21 (第三次) ～全体像を理解しよう～」として6ページの特集記事を掲載していますので、是非、ご覧ください。

https://www.health-net.or.jp/syuppan/kenkozukuri/saishin_pdf/kenkozukuri202308.pdf?20230808

※バックナンバーも公開していますので、ご活用のほどよろしくお願いたします。

<https://www.health-net.or.jp/syuppan/kenkozukuri/backnumber/r05.html>

3) 健康心理学コラム Vol. 128

「トラウマと援助要請のあいだにあるもの」
瀧井 美緒 (岩手県立大学)

トラウマを体験した方が、日常に支障をきたす何らかの症状を示していても受診につながらないケースや非専門家に相談をして適切な支援が得られなかったケースが散見されます。私はこのようなトラウマケアを阻む要因について研究を続けています。

昨今注目されているトラウマインフォームドケアではトラウマの理解や生活に及ぼす影響について知識を持って関わる重要性が指摘されています。わが国では精神疾患等に関する様々なスティグマが存在し、中でもトラウマに関連する問題は理解されにくく、援助を要請しづらいつらいつらと考えられます。そのような背景から、しろうと理論 (人々が持つ“心理的な問題への対処に関する”自分なりの考えや理論) に着目しています。これは、その人自身の知識や概念を基に形成した信念から最善と考える対処行動をとるため、常に解決に向けた最善な行動が選ばれるとは言えず、結果的にケアを阻むケースも存在すると考えられます。実際に調査した結果、信頼している人に相談をするといった行動よりも逃避することによって症状が軽減すると考えているなど、適切とはいえない理解をしていることが明らかとなりました (瀧井, 2021)。トラウマを体験した本人だけでなく、様々な対人援助職に対しても、

これらの知見に基づいた心理教育を実施し、トラウマに関するリテラシーを向上させることで、症状の重症化や長期化の予防、適切な援助要請や支援が可能になると期待できます。

引用文献

瀧井 美緒 (2021). ト라우マ体験後の対処方法に関するしろうと理論 第27回日本災害医学会学術集会, 401.

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 < jahp@pac.ne.jp >

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 < jahp@pac.ne.jp >

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<https://kenkoshinri.jp/health/health1.html#mailmaglist>